

Title	福澤諭吉書簡の新資料-近藤良薫宛一太郎・捨次郎米国行を知らせるもの
Sub Title	
Author	丸山, 信(Maruyama, Makoto)
Publisher	三田史学会
Publication year	1983
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.53, No.2/3 (1983. 7) ,p.16(122)- 16(122)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19830700-0016

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福澤諭吉書簡の新資料——近藤良薫宛一太郎・

捨次郎米国行を知らせるもの

本年五月愛知県出身の福沢門下生の調査の際、愛知大学田崎氏より、碧南市教育委員会に下記の福澤書簡のあることを教えられ、早速探訪に当地に参上したので、ここに御報告する。句読点等は筆者。

近藤良薫宛 明治十六年六月二十九日付〔発信年推定〕

過日^は華翰^は被下^は拜見。扱^は北堂御事久々御病氣ノ之処、御養生不被^は為^は叶、御長逝之趣誠絶言語ノ驚入候次第、御一統様ノ御愁傷之段、深奉察。御病中御様子も承知不仕、曾而^は一回之御見舞も不申上、怠慢^の之罪御悔吝可被^は下候。豚兒共米国行之義ニ付態々^は御尋問被^は下、実ハ出発ノ前、御暇乞にも参上可仕候処、俄^に之事^に而、不得其義^を為^は御知さへ不申上、却而^は御尋に預り、痛入候次第、唯々執行^の之為、海外へ参候ノまで阿まり目出度旅立ノにも無之、百事質素ノを旨として、朋友間へも、態下^は吹聴不致義不惡^を御承引可被^は下候。出発後ノも兎角多事^に加るニ、家中一時^に二人を減し、何^の平均を失ひ候ノ様ニ而、心事も淋しと、夫是^を御返事も延引ノ平^に御免可被^は下候。何^れ其中出港之節、御尋問可申上、乍憚^を令聞其外皆々様へ宜布ノ御致意奉願候。右ハ御返詞^に兼而御吊までノ申上度、早々如此ノ御座候。頓首ノ

六月廿九日 福澤諭吉

近藤良薫様

梧 下

書簡は、富田正文氏のお話では『福澤諭吉全集書簡集』中に良薫宛のもの十通ほどあるが、これは誠に史料価値の高いもの。昭和五五年遺族より碧南市に譲られたもので、タテ一八、七センチ、ヨコ一〇五、五センチ、封筒はない。近藤良薫は、明治六年十一月十一日慶応義塾入社、のち医学校卒業、横浜に開業、野毛山病院々長、横浜医師会々長歴任、福澤諭吉に仲人をしてもらうほどの親交のあった人物で、父は安中、兄は担平、弟は浩平でいずれも義塾とは関係が深い。もう一通の近藤良薫宛書簡も発見されたので、次の機会に詳細を報告したい。碧南市教育委員会由良英俊氏等に種々お世話になった。記して感謝の意を表する。

(丸山 信)